

## アクティブ SITA 定例会資料

2006年11月14日

鈴木 なつ子

ただ今、この文章を音声で読み上げていますが、これはスクリーンリーダー（画面読み上げソフト）の PC-Talker というソフトを使っています。このソフトは、どのような時に使うと思いますか？

お気づきになったかと思いますが、私達晴眼者は、音声ソフトは必要ないのですが、視覚障害者のかたがパソコンを利用する場合には、スクリーンリーダー（画面読み上げソフト）を使います。視覚障害者のかたは「音声読み上げソフトを聞きながらパソコンの状態を把握し、マウスを使わずにキーボードですべて操作する」という方法が一般的にとられています。今皆さんが、何も映されていないプロジェクターの画面が、パソコンのスクリーンと考えていただけたらと思います。そして、この状態で視覚障害者のかたは、音声を聞きながらパソコンをキーボードで操作していきます。

では実際に、スタートメニューからワードの新規作成画面をだして「こうせい」と、入力して漢字変換してみたいと思います。

視覚障害者は、いまお聞きしていただいたようにこの漢字の説明を頼りに変換文字を確定していきます。

今度は、スクリーンを見ながら同じ操作をしてみたいとおもいます。

音声ソフトと私の関わりについて紹介させていただきます。

2001年、大和市で視覚障害者対象の IT 講習会が開催され、そのときサポーターとしてボランティアをしました。その後、参加していた受講者から継続の強い希望が寄せられ、大和市生涯学習センターの支援を受けて、私達は、視覚障害者パソコンサポート「ALT（オルト）」を、2002年に発足しました。ALT（オルト）に来ている受講者は、全盲、将来徐々に失明へと進んでいく弱視者です。中高年になってからの中途失明のかたは、点字教育を受けていないかたが多く、点字を読むことができません。したがって、視覚障害者のかたがパソコン操作を身につけることによって、私達晴眼者と同じようにパソコンを使用して生活に役立てることが出来ます。

そして、パソコン操作の受講者の感想として

・電子メール

他の人の手を借りて、読んでもらっていた手紙を、自分で自分の手紙を開封して自分で音声で読むことができる。もちろん、入力文字をよませながらメールを書いて出すことができる。

・インターネット

最新情報の新聞を読む事ができる。

いろいろな情報が、リアルタイムで手にはいり自分の世界が広がる。

市の広報をよむことができる（録音テープでは手元に来るまで時間がかかる）

・ 文字入力

日記を書くことができる。

視覚障害者のかたが普通に生活するための一般的な音声ソフトとして、

スクリーンリーダーソフト

PC-Talker、

95Reader、

メールソフト、

MM メール、（Outlook Express のスタイルに似て作られています）

ホームページ閲覧ソフト

Homepage-Reader、

ニュースを読むソフト

News to Speech（操作が簡単）